

「調布陥没は特殊地盤の施工管理に問題あり。リニア大深度工事は安全に施工するので安心を」、
「40メートル以内の家屋調査は実施」、
「ボーリングによる追加調査はしない」
～ 説明会参加の住民からは具体的な説明を求める声、夜間のトンネル工事はやめよ、巨費と電力浪費のリニアは中止せよ等の反発が相次ぐ・・・
外環事故の原因を過少化し、工事推進に前のめり～6月8日東京の工事説明会

J R東海は6月8日午後2時から東京・品川区大井町で、「中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）シールドトンネルにおける安全・安心等の取り組みに関する説明会」を開きました。対象は品川区、大田区、品川区の住民でおよそ3百人が参加しました。

最初にJ R東海建設推進本部からリニア新幹線の意義などの説明の後、説明担当者が東京外環道の陥没事故の調査結果を検討した結果、特殊地盤を掘削するにあたって施工・管理に誤りがあったことが原因であると結論し、リニアの場合東京北工区（9.2km）には特殊地盤が存在せず、施工にあたっては掘削土の固まり具合などを丹念にチェックするなど安全な管理に努めるので地表に影響を与えることはないと説明しました。しかし、大深度工事が地表に影響しないとは絶対に影響しないとは言い切れないとして、リニア工事では、ルートの一から両側40メートル以内の家屋調査を行うことを明らかにしました。また情報公開に消極的だと批判されていることをかわすため、オープンハウスを展開し地元での理解を深めると説明しました。

この日の説明でJ R東海は、特殊な地盤における工事ミスが外環道事故の原因であると断定し、リニア工事では施工管理をしっかりとやるので、外環のようなミスはしないから安心をと言っているだけであり、J R東海のこの日の説明の内容や姿勢からは、勝手に40戸の住宅を取り壊され、長期間移転させられるという東京外環道住民の言われなき甚大な被害と精神的苦痛を真剣にそして」誠実に受け止めてはいないことをわかりました。

J R東海は、工事の施工・管理には安全を強化するとして上で、大深度であっても地表に工事の影響が出ることが外環道事故で明らかになったために、全く影響はないとしてきたこれまでの見解を、「まったく影響がないことでもない」とやや修正し、初めてルート上の家屋調査を事前に行うことを明らかにしました。

私たちが求めてきた家屋調査の実施は受け入れましたが、40メートルよりずっと深い大深度工事であるために家屋調査の範囲をもっと広げる必要があるという住民の声もありました。もう一つのボーリング調査の追加についてJ R東海は、「大深度も浅深度も十分に調

査を行っている。北工区（品川区～大田区～世田谷区）に特殊地盤がないことも分かっている」として、事前のボーリングの追加はしないという方針を明らかにしました。また「夜間工事はやめてほしい」という要望に対しては「安全に実施するので夜間工事を行う」と答えました。

同じ公共事業体であるNE XCO東日本が施工主となって、同じ大手ゼネコンが同じ形式のシールド工法で工事し陥没事故を起こしたのに、「施工・管理に問題があった」と断定し「リニア工事は安全だ」と言うJR東海の説明は、まさに天に唾するようなものです。JR東海の説明では、岩盤状になった大深度のシルト層を安全に掘るので問題はないとしていますが、本来大深度工事技術指針で100～200メートルおきに実施すべきとなっているボーリング調査を行っていないことも事実です。特殊地盤だから陥没が起きたとしていますが、世田谷区からの掘削開始直後から河川に酸欠気泡が発生し、工事が原因とみられる振動や低周波音が感じられるなどの苦情が寄せられていました。特殊地盤だから起きたと断定するには無理があります。大深度工事による土砂の取りすぎとか、掘削による岩盤の変形により浅深度の地層に影響が出ることが専門家から指摘されています。

JR東海の説明会担当者は、当日夜の記者説明において、「説明会参加者には理解していただいたと思う。施工管理を強化し安全に大深度工事を進める」と述べています。また、今回の説明会にメディアの参加は認められませんでした。説明会における住民の発言を聞かせないためです。そして、住民からいくら批判や疑問の声が出されても、説明会は手続きとして行い、工事は決めた通り進めるとというのがJR東海の方針です。

説明会の告知方法についても今回も、「狭い範囲でのポスティングで済ませていて、ばらつきがある」との抗議の声も出されましたが、ルート近隣の狭い範囲に説明会を知らせること、そして報道陣は会場から締め出すなど、JR東海の今回の説明会で明らかになったのは、これまで同様に「住民の声を広げない」という意図的、作為的なやり方でした。

また、工事により被害が生じた場合の補償の内容などについて、JR東海は具体的な説明をせず、補償については個別に対応する考えであることを強調しました。東京外環における補償措置も個別対応で、共通の補償の原則が示されていません。JR東海に対し、調査方法や補償の際の原則の開示を求める必要があります。

工事方法についてもシールドマシンによる掘削方法についても、専門用語を使って説明するだけで動画によるわかりやすい説明がないため、参加者に「安全だ」と理解されることは無理だったと思います。

家屋調査について対象者にポスティングで知らせるのはあまりにも失礼であり、各戸宛に

封書で案内せよという住民の声もありました。

また、巨費と電力を浪費するリニアの工事を中止せよとの声があり、会場から大きな拍手が起きました。

今後、川崎市や町田市、愛知県の春日井市や名古屋市でも今回と同じ大深度工事の説明会が開かれると思います。私たちは、説明会前に参加するメンバーと協議し、系統的かつ具体的な質問や意見を整理して、説明会ではJ R東海の痛いところを突く体制を作ることが必要です。

以下、当日の説明下でのやり取りの概要を紹介します。

説明会の質疑・回答概要

冒頭のJ R東海中央建設本部吉岡建設部長の発言趣旨～

「東京外環道地盤崩落事故は、特殊地盤における工事の施工に問題があった。私どもは、中央新幹線の大深度工事では安心・安全を強化して工事を行う。トンネル工事について検討委員会トンネル部会で専門家による安全な施工を検討している。シールド工事前に別途新しい内容について説明する」。

質問：外環道の被害の知見をどう受け止めているのか。

回答：外環道の調査結果と情報を集めて検討し、工事の安全と施工管理にしっかりとつなげていく。

質問：シールドマシンが通る際の振動や低周波をどう抑えるのか。

回答：外環道事故を踏まえどう工事につなげるのかが今日の説明会。レーザーシールド(?)を生かして、発生土の状態を安定的に保つかを考えている。

質問：外環道施工者との協議は行ったのか。

回答：外環道事故は地盤に影響することを考えないで工事をするやり方に間違いがあった。大深度地下と浅深度地下の関係性をしっかりと把握して工事を進める。

質問：自宅近くに洗足池があり、リニア工事で池の水が抜けるとの不安ある。大深度工事による地下水への影響はないのか。

回答：地質調査では北工区では大深度に地下水はない。地下水がなくなる心配はない。

質問：家屋調査を対象者にどう伝えるのか。

回答：チラシにて個別に案内をする。調査への協力をお願いしたい。

質問：リニアの地質調査で北工区に特殊地盤がないことがわかるのか。

回答：むかし海底だったところであり、岩のようになった固結シルトがほとんどで地盤は固い。浅深度の地質も把握している。東京の地層については調査知見がたくさんある。だからボーリング調査の追加はしない。

質問：事前の家屋調査は具体的にどうやるのか。

回答：ボーリング調査で地盤のゆるみ等は調べている。注意して工事を進めたい。

質問：超電導による高速走行で、家電機器に影響はないのか。

回答：電磁波ではなく磁界と言うが、国際基準の ICNIRP のガイドラインに比べれば 1.3% 程度の数値であり全く問題はない。

質問：説明会の事前広報体制は不十分だ。告知や説明も住民に丁寧にすべきだ。

回答：説明会のアナウンスだが、今回からオープンハウスによる説明機会を設ける。工事状況などをその機会に説明していく。

質問：オープンハウスは双方向ではない。丁寧な説明の機会が必要だ。

回答：東京工事事務所まで問い合わせいただきたい。（「そういう問題ではない」の声）

質問：シールドマシン工事では、トンネルの外部の地盤にギザギザができる。空気が押されて上に上がっていく。リングができ、安定した段階で家屋調査をやるのか。

回答：工事ではトンネル内の土もトンネル周りも固めていく。裏込め剤も注入し固めていくので空気が上に上がることはない。事前調査をし、工事が済んだ後で家屋の被害状況を調査する。

質問：外環道では一か月後に地盤崩落が起きた。

回答：工事中も地盤への影響について調べる。東京外環道では工事の施工管理に誤りがあった。施工のやり方を間違えると事故が起きる。工事中も地盤の変位について調べていく。

質問：ルート of 両側 40 m 以内を家屋を事前に調査すると説明しているが、90 m のところで掘れば影響の範囲はもっと広がるではないか。

回答：専門家の説ではあのような家屋調査の範囲になる。

質問：外環でも低周波音が発生して夜眠れないなどの住民の声があった。夜間の工事は中止すべきではないのか。

回答：大深度からの低周波音は出ない。工事で振動が地表に伝わることはないとは言えない。被害があれば私どもの責任で補償をする。

質問：今日の説明会について私のところに告知がなかった。どのように広報したのか。

回答：ポスティングでお知らせした。

質問：東京工事事務所に電話したが、「答えない」という回答で、住所と名前を教えてと言われ、確認してから返答するということがあった。家屋調査の通知は封書で送るよう求める。

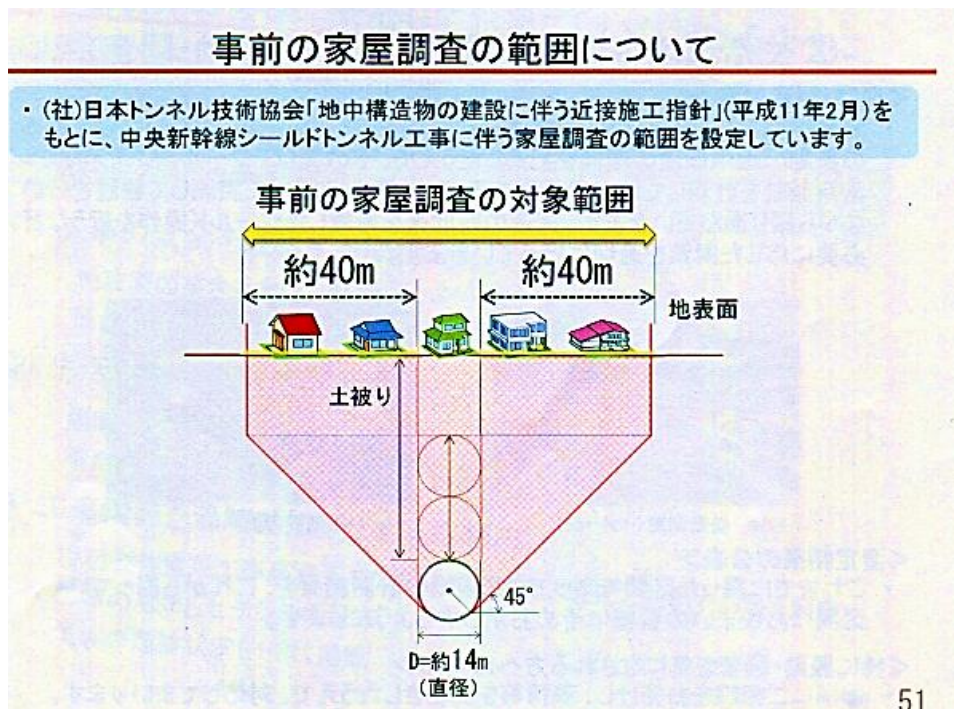
回答：おっしゃることを確認してから回答します。（「おかしいじゃないか」との声上がる）

質問：東京外環では地下の下水道管などインフラ施設にも被害があった。

回答：繰り返しになるが、私どもは影響があれば工事はしない。北工区の場合、東京都の下水道管との関係だが、リニアのトンネルは下水管よりもずっと深いところで掘るので影響はない。しっかりと事業間の事前調整をしており、お互いに影響がないよう確認している。

以上

.....
< J R 東海の説明会資料にある事前の家屋調査の範囲 >



.....
(説明会質疑は東京・神奈川連絡会 天野捷一がまとめたものです)